

東海道第四十八宿

東海道五十三次

坂下 さかした

東海道中でも有数の難所、
だいたひ鈴鹿峠。かつては險路のうえに、
山賊が出没として恐れられていた。
山賊が旅人を待ち受けたりと、鏡岩
は、山々を眼下に見晴らす絶景の場所

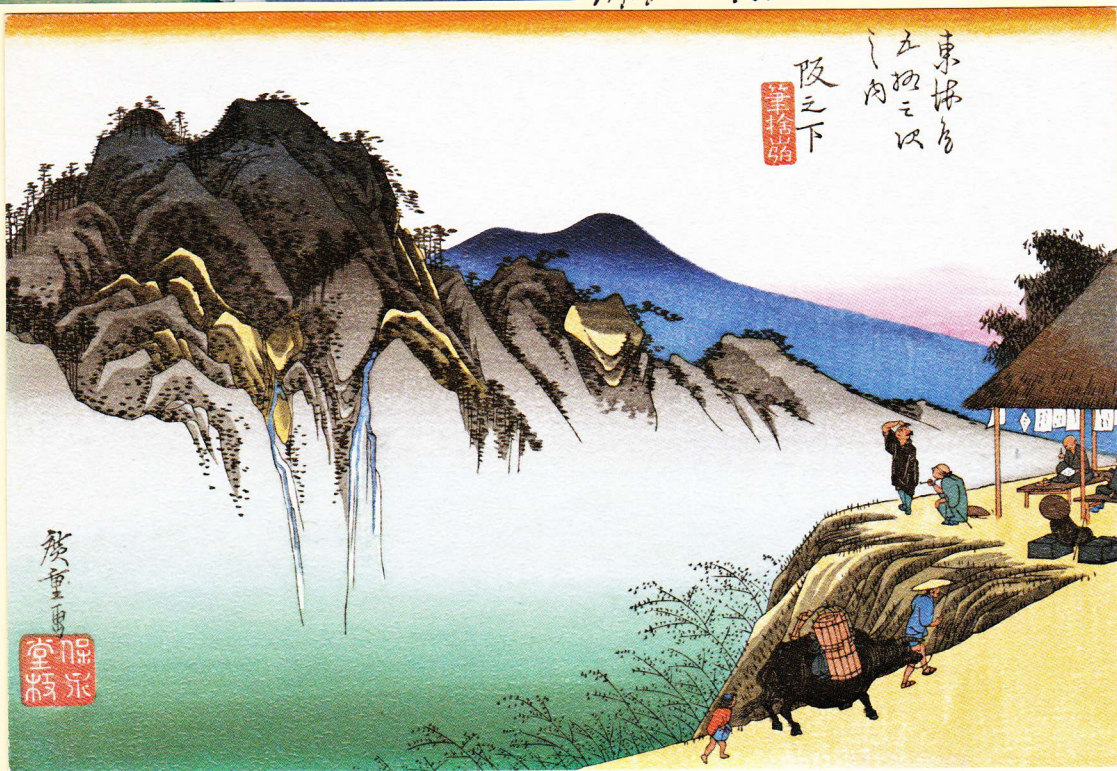


▲鈴鹿馬子唄会館

鈴鹿川の溪谷の向こうに
筆捨山が見える。かつて
画聖狩野元信がこの景
勝に心ひかれて絵を描こ
うとしたが、激しく変わる
気象の変化に筆が及
ばず、ついに筆を投げ捨て、
それ以来筆捨山と呼は

画聖の筆捨山

れるまじつになつたと
いう伝説がある。
たしかにここは鈴鹿山々
に囲まれ、天候が変わり
やすい。



東海道
五十三次
坂下
筆捨山



鈴鹿馬子唄会館
平成七年（一九九五）七月開館。
国道二号の鈴鹿峠三下線分
岐点からすぐ多球面型の
ユニークな建物で、周囲には
五十三次の宿場名を記した
柱がたてられている。
多目的ホールには昇降式ステ
ジも。
かつてはのぼりくたりの旅人
にぎわい、大きな旅籠が軒を
連ねた。本陣、脇本陣の規模も

街道有数だった
といふ。
戸数も一六〇ほどの
宿場だったが、
明治以降近代交通
の谷間に残された
かたちで急速に
まじれた。